



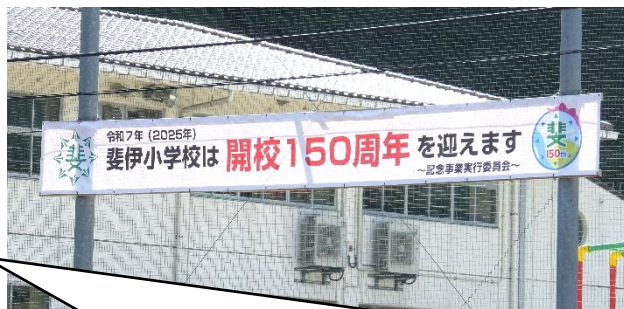
令和7年（2025年）

斐伊小学校は開校150周年を迎えます

斐伊小学校は、明治8年（1875年）に開校しました。学校だより「ひいの子」では、開校150周年にちなんだ記事を紹介していきます。

令和7年6月

記念事業① 横断幕が完成



「ひいの子」令和6年度3月号でお伝えしていた横断幕が完成しました。まず、6月4日のロードレース大会の時、子どもたちと応援に来ていただいた保護者の皆様に完成の報告をしました。そして、6月17日、校庭のフェンスに設置し、地域の皆様にも見ていただくことができました。

設置にあたっては、小学校後ろの砂防ダム工事に携わっておられる田中工業さんにお世話になりました。ありがとうございました。

記念事業② 開校150周年記念コーナー「写真で振り返る斐伊小学校」



職員室前の廊下に掲示していますので、ご覧ください。
来校の際は、職員室に声をかけてください。



交流センターにも掲示してあります。これらの写真は、交流センターと小学校で3～4週間ごとに交換して紹介します。そして、11月22日の学習発表会までに、順次更新しながら約70枚の写真を展示していきますのでご覧ください。

思い出のギャラリー

“斐伊小学校の校歌の移り変わり”

斐伊小学校の校歌は最初昭和16年に斐伊村国民学校校歌として新しく制定された。これはもと斐伊小学校に勤務（大正13年～昭和2年）され斐伊には馴染み深い南加茂の国語学者加藤義成先生が島根県師範学校の先生当時に作歌されたものである。

- (1) あしたに仰ぐ城名樋山 國中さだめてまつろひし
神の勲もかぐはしく ここなつかしき学びの舎
- (2) ゆふべゆたけき斐伊の川 源清き上つ代の
御祖の誠うけつぎて 皇国の道を修めなむ
- (3) 日出づる国の樋の郷に 御民と生れし我等いざ
共に磨きて大君の 醜の御楯と尽さばや

数年ならずして世は変転した。昭和20年終戦、そして22年には学制改革が行われて国民学校は廃され、面目を一新した斐伊小学校が誕生した。そこで昭和26年、再び加藤先生に依頼して出来上ったのが現在の校歌である。

作曲は山方の代宮家出身の北川剛先生—昭和9年に斐伊小学校を終え旧制三刀屋中学校から東京武蔵野音楽学校を卒業して、現在東京で各方面の合唱団指揮をされている。（木次町の歌を作曲）

- (1) 新しい世の朝日かげ 城名樋の山に直射せば
学びの園に咲きそろふ 命の花に望みあり
- (2) 清き泉の湧き湧きて 斐伊の川水遠ければ
学びの海を漕ぎ渡る 命の楫に力あり
- (3) 深いまことに結ばれし 教の親子手を取りて
目ざす平和の理想郷 斐伊小学に栄あれ
われらが行くて栄えあれ



～「斐伊小学校 百年の歩み」から抜粋～